

ここ数カ月の国立ファームは激動
しています。川下工事として「農家
の台所」新宿3丁目店のオープン、
「御膳・農家の台所」立川高島屋店
の開店準備、「プレッセプレミアム」
東京ミッドタウン店様での篤農家野
菜コーナー常設開始、イベントでの
試食販売を随時開催、EC通販の開
設とテコ入れ、さらに飲食チェーン
店への卸流通設計、弁当中食部門の
実験販売、加工品の販売チャンネル
開拓などの模索も始まっています。

全スタッフにはこの間に野菜の語
り部としての力量を上げるために、
月4回の「農場研修」という農作業の
お手伝いが義務付けられています。

川中工事も急ピッチで進んでいま
す。集荷・ピッキング・発送センタ
ーの拡張移転と物流システムの再構
築や地場朝採り野菜及び集荷部隊の
拡充、そして青果を扱う者として必
然的に発生する青果加工品の開発で
す。ちなみに合言葉は「ジャム・ジ
ュース・漬物に逃げるな!」。素材
の使用量は少なくなりますが、素材
を多く利用したいという考えは生産
者の勝手な都合であって消費者には
関係ないことです。素材をより美味
しくする味噌やドレッシングなどの
調味料や、素材に付加価値を付ける
加工としてアイスクリームや菓子・
餡といった、野菜嫌いでも手を出し

ていただけの加工品の開発です。
川上は、まあそれなりに遅々と進
めています。第一次産業は10年先を
見ながら進めるのが基本ですから。
今、60名を越えた社員たちには
「寝るな!休むな!」「今年がオマエ
たちの人生にとって正念場なんだ
ぞ!」「浸水してくる水をかき出し
ながら、オールを漕げ!」と檄を飛
ばしています。こんな会社の経営者
である僕はどれだけ忙しいのかと言
いますと、「ひま!」です。なぜな
ら彼らが忙しいと僕の相手をしてく
れないからです。ドウ・シー・プラ
ンのドウにひと段落着かないとシー
もプランもできませんし、次のドウ
を指示するわけにはいきません。
それでも数カ月後には落ち着きま
す。その時に次の指示が出せるよう
に計画を立てている最中です。リー
ダーは明日を想像するのが仕事です
から。しかし彼らの動きは毎日の業
務報告書を読み込むことで把握して
います。失敗だらけでトラブルは各
所で毎日のように起きていますが、
逐一報告に上がって来ますし、「私
が何とかしなければ」という現場の
声が聞こえてきます。どうしようも
なくてヤル気が下がるか、事故が起
きない限りはほっておけば良いんで
す。責任感のある幹部は不条理な環
境から自然発生するものです。

僕がこのような考えを持つリーダ
ーになった理由は師匠のテリー伊藤
の影響です。伊藤は(呼び捨てにす
るのはいまだに身内意識が強いもの
で)一言で言えば「子供のようにな
司」でした。自分のやりたいことな
らば、時間・予算・人力的に無理な
ことでも「やりなさい!」と命令す
るだけです。当然手伝ってはくれま
せん。そしてできないと殴られるか
伊藤班から外されます。しかし伊藤
のやりたいことを映像にして放送さ
れると視聴率20%番組として評価さ
れてしまうんです。逆らえませんよ
ね! 結果が伴っている子供には。
逆に大人の上司がいて、無理のない
指示をして、一緒に苦勞をしてくれ
ても結果を出せないのであれば、僕
はついていきたくありません。

多くの人は後者の上司を選んでし
まうでしょう。実際伊藤の下で耐え
られたのは10人に1人でした。とい
う僕も毎日のように「辞めたい!」
と漏らしていました。ですが一度で
も勝利の美酒を味わってしまった僕
は今さら無理のない仕事をしたくは
ありませんし、部下にもさせたくは
ないんです。だから今日も1000の
能力を持った部下たちに2000の仕
事を与えるべく、働かずに頭を動か
しています。すべては部下に勝利の
美酒を飲ませるために!

国立ファーム有限会社

高橋
がなり
の

アグリの猫

~早く「虎」に変わるんだ!~

第29回

労働者は現在、リーダーは3カ月後、経営者は3年後……